

令和6年度第1回自然に健康になれる環境づくりの推進に関する検討会結果要旨

- 1 日 時 令和6年5月29日（水曜日） 午前10時から正午まで
- 2 場 所 千葉県庁南庁舎9階会議室
- 3 出席者等 委員5名、事務局7名

計12名

4 議 題

(1) 報告事項

健康ちば21（第3次）概要について

(2) 協議事項

- ①令和6年度自然に健康になれる環境づくりの推進に関する事業計画（案）について
- ②既存事業のブラッシュアップについて

5 委員からの意見

①令和6年度自然に健康になれる環境づくりの推進に関する事業計画（案）について
（取組具体事例の紹介）

- ・県民にも市町村にも広く情報発信できる方法で周知するとよいのではないか。
- ・まずは千葉県の取組が中心ではあるが、今後、県外の事例も入れていいのではないか。
（部局横断的な連携）
- ・全庁各課に関連事業について照会をかける際には、ロジックモデルの活用など、他課にも理解しやすいような記載が必要ではないか。

（活用できるデータベースの作成）

- ・市町村が活用しやすいデータとするために、生活習慣に関するアンケート調査のクロス集計項目などを検討するとよい。

②既存事業のブラッシュアップについて

（健康ちば協力店推進事業）

- ・既存の登録店は、登録要件（食塩ひかえめ、野菜たっぷり、終日全面禁煙から2つを選択）のなかで野菜たっぷりを選択している登録店が多く、食塩ひかえめを選択する登録店が少ない。健康ちば21（第3次）には減塩対策がかかげられているが、この方法だと進まない。基準を見直す必要があるのではないか。
- ・健康経営を推進している事業所（かつ特定給食施設）との連携により、効率的に登録店を増やしてはどうか。健康づくりに関する企業文化もある。
- ・総菜店や弁当屋などを巻き込むと良いのではないか。

・飲食店は家族や友人と利用する機会にもなる。食を通じて社会関係を生み出すような取組になるとよい。健康ちば協力店で地域の高齢者が集まるイベントがあってもいい。栄養面でも、地域のつながりという面でも貢献できる。

・健康ちば協力店について、「食」にこだわらず、「運動」や「受動喫煙対策」など、この店はこれを重点的にやっているというようなマークをつくるというのはどうか。そうなる件数も増えるので、多くの人の目に触れるようになる。千葉県全体で、あらゆる側面の健康課題を解決するという点では、健康ちば協力店の概念を広げてもよいのではないか。

・学校給食現場の実情として、塩分が少ないと残菜が多くなり、塩分が多いと残菜が少なくなるという課題がある。県教育委員会からまちの教育委員会に情報提供していくのがよいのではないか。県内の取組事例に限らず、現場の声にこたえられるような取組事例の紹介があってもよい。（※広島県呉市では、数年間かけて食塩相当量を段階的に減らし、美味しい「適塩給食」に成功するなど、好事例もある。）

・コンビニなどに喫煙所があると、喫煙する人が集まる。例えば、そのコンビニを健康ちば協力店にして、喫煙所をなくしたり、コンビニで減塩弁当を販売した、地域内の協力店のリストを配布したりというような形にすると、健康的な環境に改善すること（受動喫煙の防止、減塩メニューの販売）ができて、健康ちば協力店のPRもできるということができたらよいのではないか。

（受動喫煙対策促進事業）

・受動喫煙対策を飲食店内などで行う際に、活用できる国の補助金などの制度を積極的に情報提供してはどうか。

・子供や青少年期からの健康づくりは重要。大人になってから変えようと思ってもなかなか変わらない。小中高校の学習指導要領で決められている授業を活用するなど、教育部門へのアプローチ、連携が必要不可欠。ティッシュなどの啓発物を配るだけではなかなか変わっていかない。

・教育のカリキュラムに、どの程度受動喫煙が取り込まれているのか調査をしてはどうか。聞かれるとやらなければいけないと思う人もいるので、聞くだけでも効果があるかもしれない。

・職域で喫煙対策や受動喫煙対策に取り組んでいる企業を、各自治体が表彰する制度など、県全体で応援していくような取組を考えてはどうか。実際に、KPIなどで、予算を使った後の成果や、取組を行った企業の数などで、はかっていくことができるのではないか。

・生活習慣に関するアンケート調査結果から、受動喫煙があってはならない「医療機関」においてもまだある状態。病院にいる人が受動喫煙するという事は絶対よくないこ

と。どのような状況なのか調査をしてはどうか。その結果によって、必要な対策がとれるのではないか。

- ・株式会社ロッテと協定を結んだばかり。喫煙と歯周病は関連がある。例えば、ロッテの試合の時にチーバくんが行くということでもニュースになる。効果的というのは、人の目に触れるということがとても重要。

- ・禁煙イベントは、毎年、千葉 SOGO 前でやっているが、例えば県内で喫煙率が高い地域でとか、県内持ち回りのような形とか、より効果的な場所を選ぶという視点も重要。

- ・農業や漁業に従事している人などに禁煙のアプローチをする場合は、農協や漁協などとの連携も必要。

- ・ガソリンスタンドは、仕事で車を運転する人が利用する。オフィス環境勤務者と比較すると、一定の喫煙者が含まれるかもしれない。ガソリンスタンドでは、サービスでティッシュボックスなどを配ることも多々ある。ガソリンスタンドで啓発物を含んだティッシュなどを配布するとか。車内にこうしたティッシュが置かれれば、日常生活の中でメッセージが届けられるかもしれない。普段、なかなか接点をもちづらい喫煙者層が、どこにいるだろうかということを考えながらやるとよいのではないか。

- ・喫煙所があるような企業に、なくす方向に誘導することは重要。事業所から喫煙所を離す。距離を離すだけでも、行くことが面倒になって、タバコの本数が10本から6本になるなどの効果はあるかもしれない。歩けば歩数も増える。併せて、対策をとったことに対して評価できる仕組みがあるとよい。